

左京三条一坊の調査

—第361次

1 はじめに

調査区は二条大路南、北新大池の東、都跡通りを隔てた場所に位置し、個人住宅新築に伴う緊急調査である。調査期間は平成15年6月8日～6月20日、面積は51㎡である。

平城京左京三条一坊八坪にあたり、坪内を画する塀と思われる掘立柱を検出した。この坪の性格については、平城宮とは二条大路を挟んで南に接する位置にあるものの、まだ坪内の状況はよくわかっていない。

2 検出遺構

現代の盛土が厚く、現地表面から旧地表面まで1mほどある。遺物は全体的に少なく、摩滅した土師器、須恵器片や陶磁器が少量出土した。奈良時代とみられる遺構面は、現地表面から約2.3m掘下げた標高2.5m付近で検出した。

SA8750は掘立柱で、柱痕が残る。掘形は南北約50cm、東西約30cm、南北に細長い隅丸方形で、規模は小さい。柱痕は径約15cm。約250m北でおこなわれた第242-3次でも奈良時代のものと思われる同規模の掘立柱からなる南北塀を検出している。この塀とは軸線が合わないが、規模、方位から考えても、SA8750は南



図201 第361次調査遺構検出状況

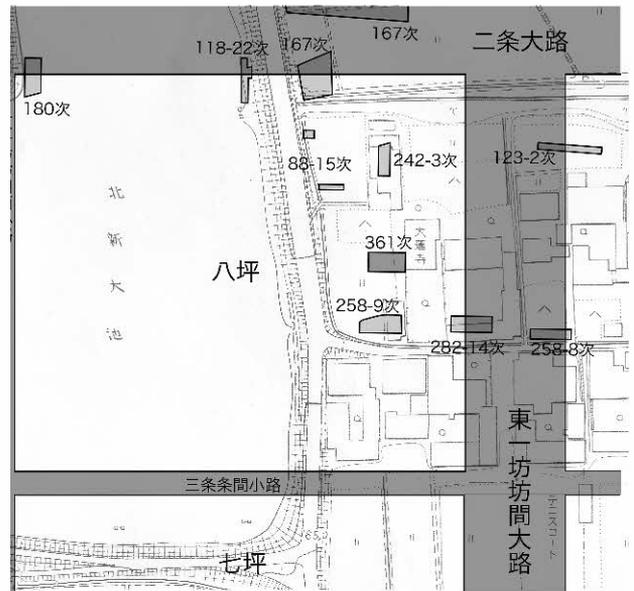


図200 第361次調査位置図(1:2000)と周辺の調査

北塀の一部とみられる。

土坑SK8751、SK8752、SK8753はいずれも深く、瓦片を含み、奈良時代以降のものと思われるが、性格は不明である。斜行溝SD8754は遺物を含まないが、SA8750に切られており、奈良時代以前の可能性もある。南北溝SD8755は埋土が粗い砂で、奈良時代以前の自然流路であろう。埋土から弥生土器片が1点出土した。(神野 恵)

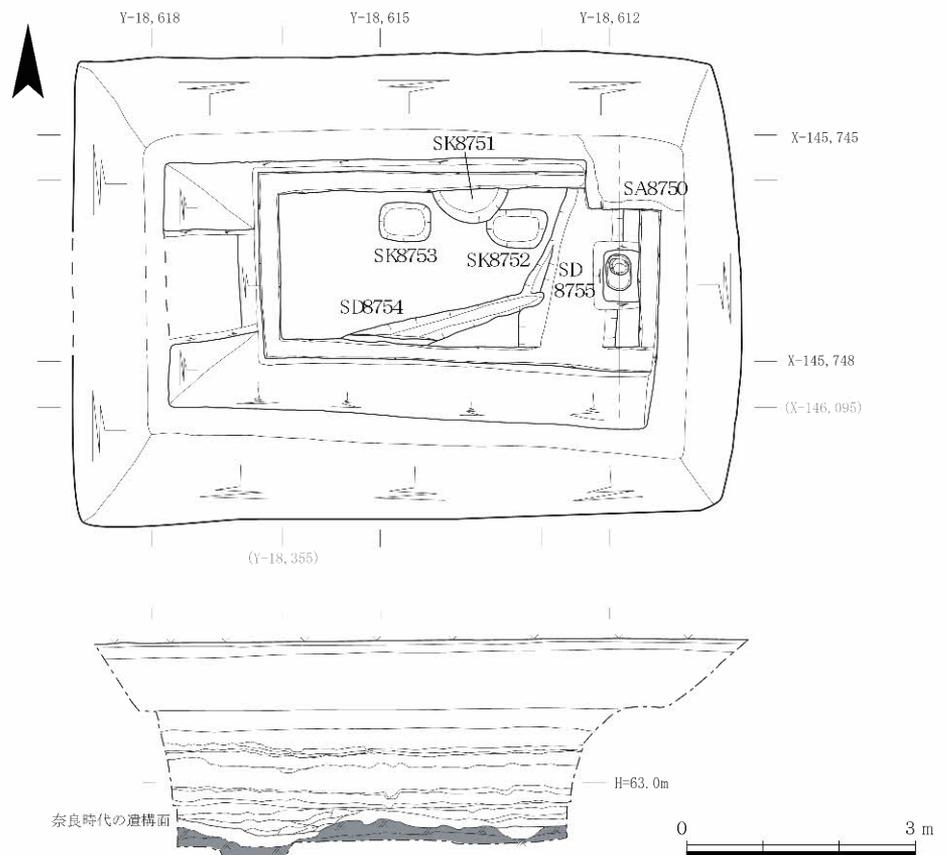


図202 第361次調査平面図・東壁断面図 1:100